

平成 28 年度 特別養護老人ホーム

サンライフ土山事業計画書（案）

今年度、サンライフ土山では、職員一人一人のモラル・接遇強化、介護技術の向上を図りスキルアップ・コミュニケーション能力の向上を図る。サービス 10 ヶ条の原点である、①介護する側の職員が優位にたつのではなく、入居者はおお客様であることを忘れません②悩んだら・迷ったら、お客様の思いに立ち帰って考え、行動します。この介護職員としての 2 点の気づきを養っていく。職員の心の余裕においては、介護技術が欠かせない。また、職員が充実感・達成感をもって業務に携われるような体制づくりを確立していきたい。収入面では、昨年度の空床が 2.2 人/日より 1 人/日となるようベット管理を行い、ショートステイと連携を図り、入院をきるだけ少なくすることや、退所後次の入所の手続きがスムーズに行えるように体制を整え、収入の維持に努める。

I. 利用者様一人一人の把握と他職種連携強化

利用者様が入居して年数が経過すると状態の変化がみられる。身体状況の変化により、栄養面や医療面での対応件数が増えていくため、情報を共有し、チームケアを図る。担当者会議以外でも、緊急時は、介護職員・看護師・管理栄養士・相談員にて検討会議を行う。また、各種委員会においても、リスク委員会や褥瘡委員会・看取り委員会においては 3 カ月に 1 回開催するとともに緊急時は話し合いの機会を持ち、そのままとならないよう緊急の対策を図る。理解が難しい御家族様においても事後の報告やサービス担当者会議の開催に参加して頂き、身体状況の把握・説明を行い参加して頂けるようにしていきたい。利用者様・ご家族様と職員との信頼関係を深め、ご家族様の協力も得ながら支援していきたい。

II. 個別ケアの充実

利用者様に充実した日々を送っていただけるよう、これまでの生活習慣を尊重し支援するよう努めていきたい。

- ① おむつではなくトイレでの排泄が継続できるよう、羞恥心に配慮し、個人に合った排泄パターンや排泄用品の選定し個別支援を図る。また、昨年度 QC 活動（失禁率を減らす）を継続し、利用者様の不快感や職員の負担軽減に努める。
- ② 歯科衛生士による口腔ケアや、介護職員・看護師による口腔体操を実施し、口腔機能の維持を図ることにより、できる限り最期まで常食を食べていただけるようにする。また、月 1 回の研修会を通じて学ぶ。

- ③ 機能訓練指導員と現場の職員で ADL の評価を行い、個人に合った生活リハビリを実施していく。また、リハビリ機器が使用できない方には、グーパー体操や口腔体操などを行いたい。
- ④ 出来る事・出来ない事を見極め、出来ない事を介助していきたい。また、定時のトイレ誘導以外にも、希望時には必ずトイレ介助をし、排泄意の維持や自立支援を図りたい。
- ⑤ 美味しく安全に食事を食べて頂くために、個人に合った食事内容その都度見直したい。また、根菜は刻みで、以外は普通食で提供するなどの要望にも応えられているので、引き続き行えるよう努める。

Ⅲ. 職員の介護力・資質の向上

土山全体で、介護技術の底上げを行う。介護技術の研修を月 1 回行うとともに、介護技術テストを行い、介護技術の向上を図る。内部研修においては、特養・ショート・デイサービス管理者と勉強会を行い情報共有や各部署の仕組みや特色を把握し連携の強化に努める。また、ユニットリーダーへの研修・介護職員への研修・医療面での研修を毎月実施し、個々のレベル・役職に合わせた研修を行う。介護技術以外では、利用者様・ご家族様から信頼を得るために、モラルや接遇・コミュニケーション能力が欠かせない。その為にも、今年度は接遇委員会を立ち上げ実施をする。接遇ではすでに実施している、挨拶チェック評価を毎月し、出来ていないもの E ランクのもの個別にて指導を行う。そして、職員のモチベーションアップや悩みの把握を行うために、月 1 回のメンタルヘルスを実施し、メンタルの先生と協力し、職員のストレス度チェックの把握や上司との半年に 1 回の面談を実施し、職員の把握・職場環境のストレスの軽減を行う。

Ⅳ. 地域との交流

ボランティアの受け入れ人数が少ないため、地域との交流を図り、ボランティアの登録名簿等を作成し、定期的に関わっていきたい。また、地域の方に毎週日曜日、生き生き百歳体操会場として開放をしている。引き続き、自治会や生き生き百歳体操に開放し、地域の方にサンライフ土山を知って頂き、地域との交流の場や認知症サロン等の場になるよう努めていく。兵庫県福祉事業協会から委託の介護技術講習会を年 2~3 回実施し、地域貢献を実施していく。

平成 28 年度介護状況目標

項目		平成 27 年 2 月末状況 (入所者 62 名)	平成 28 年 3 月末目標 (入所者 70 名)
日中オムツ使用率		12 名 20%	12 名 17%
入浴統計	特浴	8 名 13%	7 名 10%
	リフト付き個別浴	45 名 73%	55 名 78%
	個別浴	8 名 13%	8 名 11%
食事形態	普通食	37 名 59%	47 名 67%
	刻み食	7 名 12%	5 名 7%
	極刻み食	12 名 20%	12 名 17%
	ミキサー食	5 名 7%	5 名 7%
	経管栄養	1 名 2%	1 名 1%
褥瘡者		0 名	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施※		0 名 100%	0 名 100%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者/全退所
(急死除く)

【特養】

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 27 年度実績	26,211	28,564	28,134	28,019	29,627	27,832	168,387
平成 28 年度目標	26,949	27,851	28,432	28,891	29,571	27,883	169,577
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 27 年度実績	29,168	28,143	28,622	28,661	26,765	28,777	338,523
平成 28 年度目標	29,430	28,209	28,785	28,850	26,725	28,783	340,359